

IISEシンポジウムパネル討論
ICTが可能にするQOLからQODへの
シームレスな対応

2019年4月23日

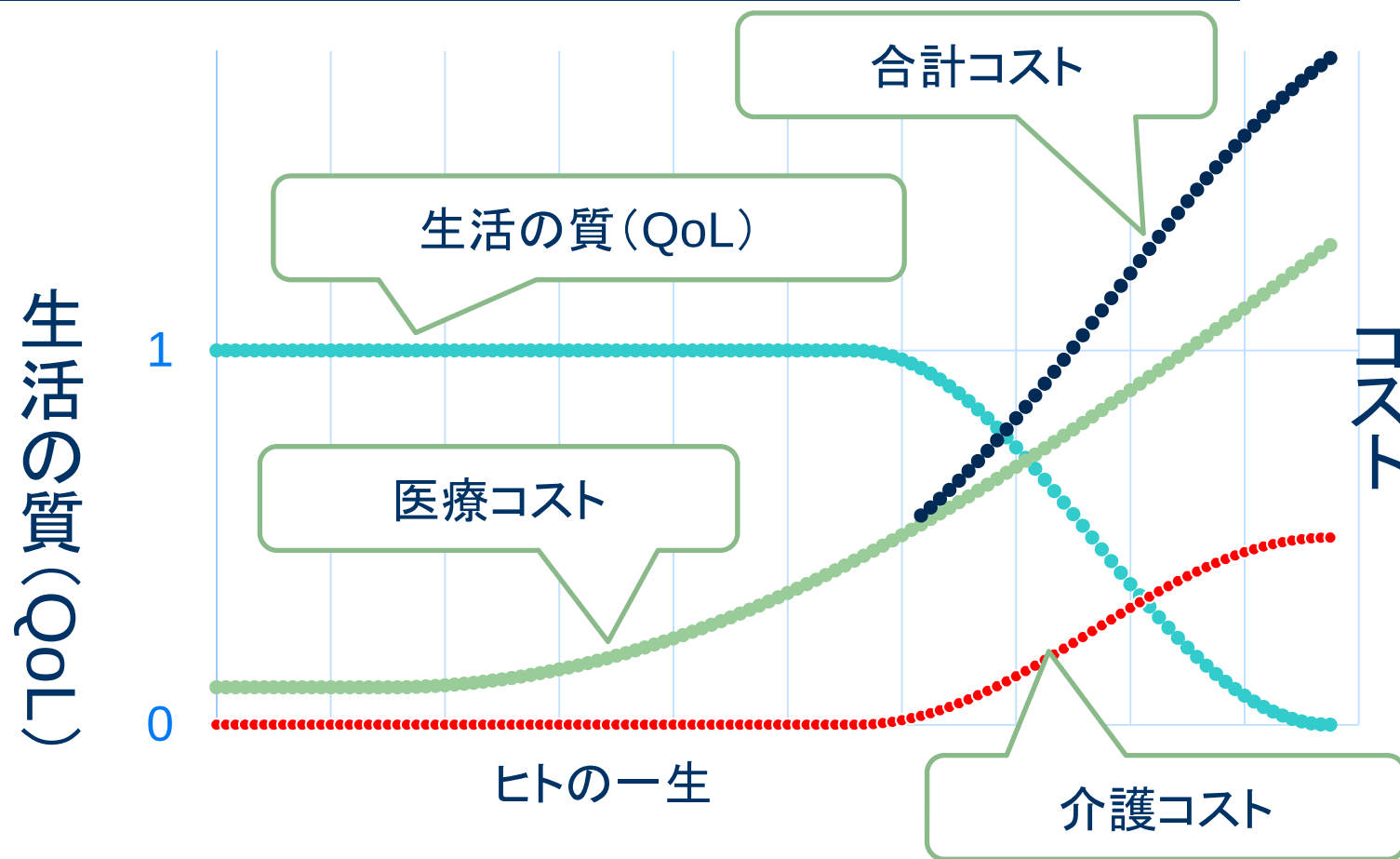
山田 肇



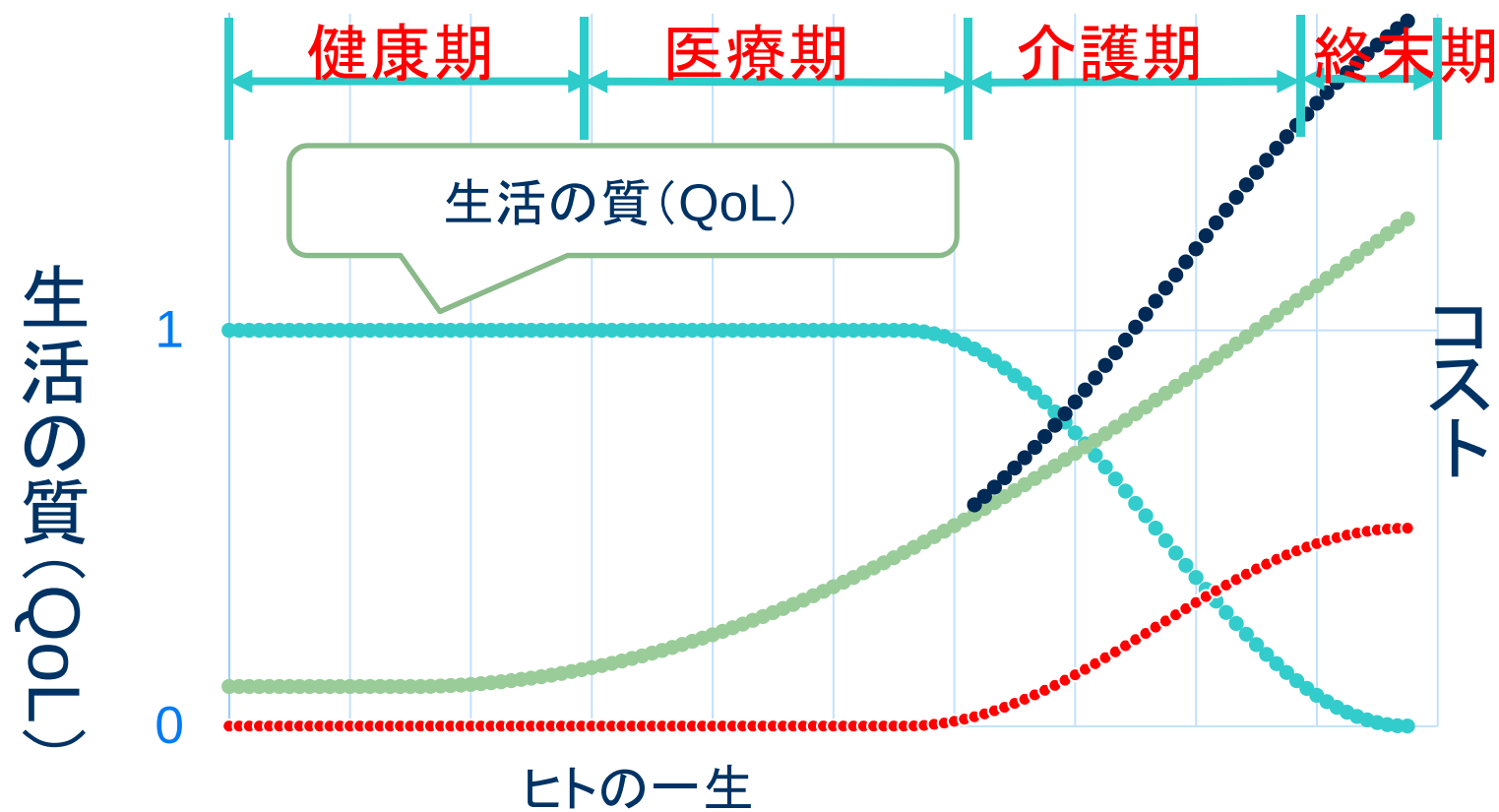
登壇者

- 川添高志 ケアプロ株式会社代表取締役社長
- 北見万幸 横須賀市福祉専門官
- 野崎一徳 大阪大学歯学部附属病院医療情報室副室長・准教授
- 萩原悠太 株式会社PREVENT代表取締役
- 平尾 勇 株式会社地域経営プラチナ研究所代表取締役
(前 松本ヘルス・ラボ副理事長)
- コーディネータ 山田 肇

ヒトの一生と生活の質 (QoL)



四つの時期



ショートプレゼンテーション

- 川添高志
 - 介護期における訪問看護師の役割とQOL
- 北見万幸
 - 行政による終活支援の必要性



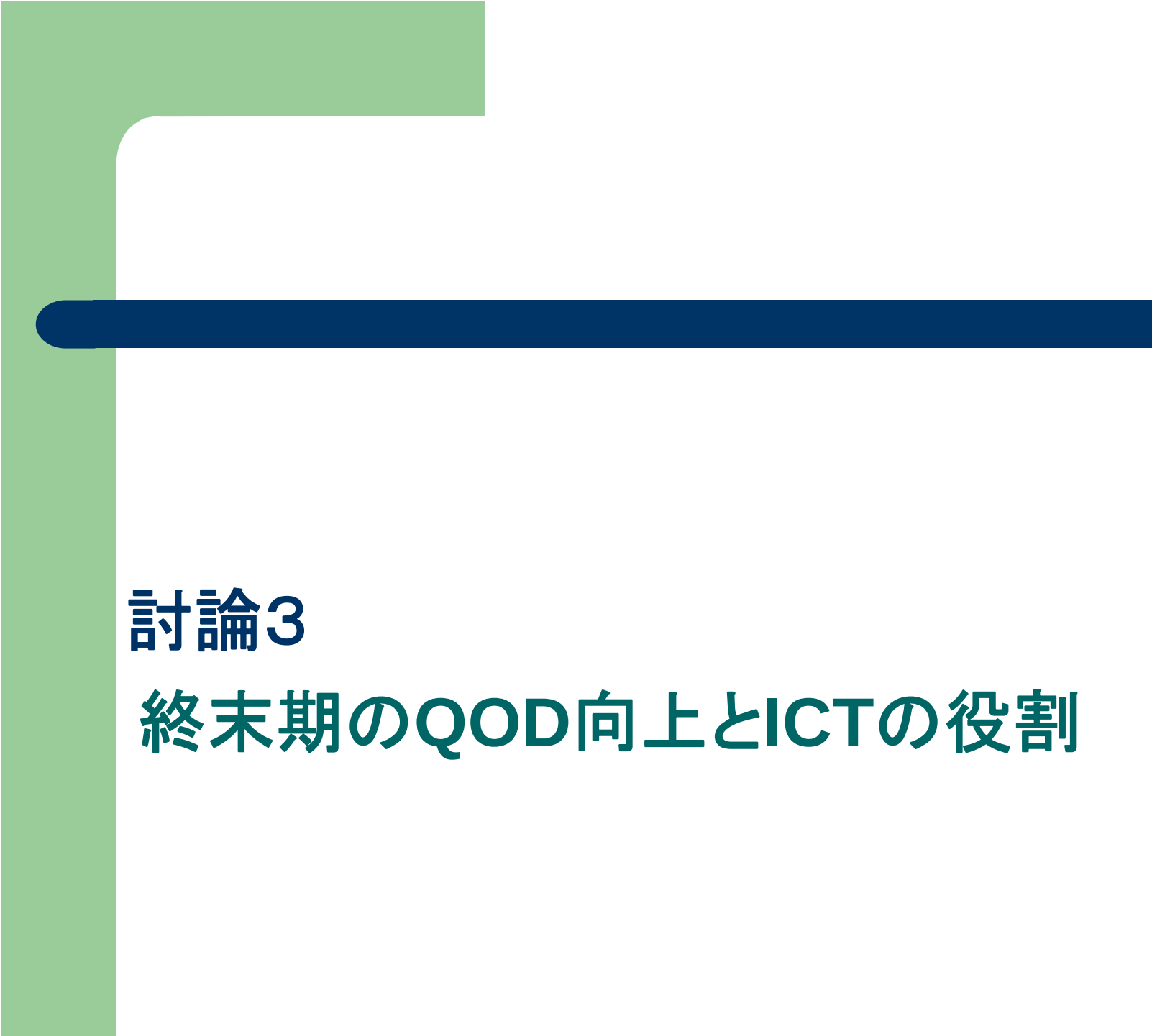
討論1

健康期・医療期のQOL向上と ICTの役割



討論2

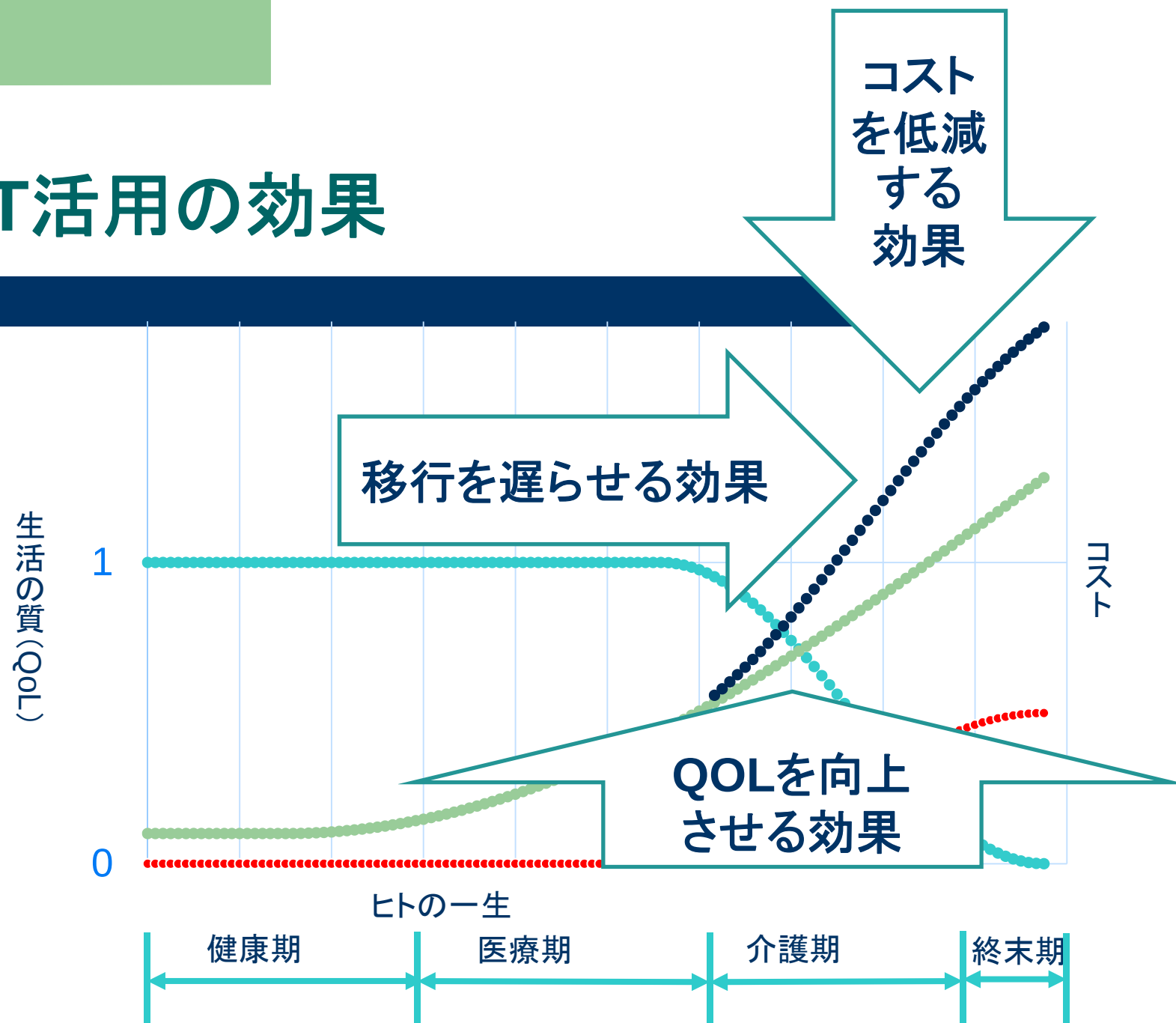
介護期のQOL向上とICTの役割



討論3

終末期のQOD向上とICTの役割

ICT活用の効果



パネルのまとめ

- 市民・患者の視点の重要性
 - 本人・家族のQOL向上が訪問看護師等の関係者のQOL向上につながり、リビングウィルの活用などを通じてQODの向上に結び付く
- QOL・QOD向上へのICTの役割
 - ICTの利活用は患者のQOL・QODを向上させる効果
 - 個別化医療・介護は、IoTなどによる個人のモニターとAIも活用したビッグデータの統計解析が両輪
 - 米国「21世紀医療法」などに負けない革新的な医療ハードウェア・ソフトウェアの早期認可制度が必要